

H30年度第1回医療・介護多職種連携会議 グループワークまとめ

困っていること

○介護側から

- ・加算のとれる3日のしほいが厳しい。
- ・窓口が限定するのでその先に進めないことがある。
- ・介護申請を気軽にしている？⇒よく考えて欲しい。タイミングが難しい。
- ・調整時期(お盆等)により対応が難しい。
- ・退院連絡が直前になると困る。特に休日前の夕方や、認知症がある方は調整が出来にくいので困るなあ。
- ・入院後の面談の際、院内で情報共有が出来ていないことあった。
- ・ケアマネにグループホーム等に入所後の様子を見に来てほしい。また、情報が欲しい(家族との関係など文章に書き辛いことは直接聞きたい)。
- ・依頼があったときには、退院前訪問が終わった後だった。一緒に行きたかった。

○医療側から

- ・療養病棟の人は待機しながら、ゆっくり調整できるけれど・・・。
- ・高梁市の病院との連携。入院前の生活わからないと支援に困ること有り。
- ・患者数が多くてすぐに面接が出来ない。連絡が出来ない。
- ・話し合いの場を設けるのが難しいことがある。
- ・入院予約がつまって退院までつながらない。
- ・連絡帳の確認がなかなか出来ない。
- ・病院によっては連携室経由にならない・・・医師の負担有り。
- ・受診時書くものが多くて大変。
- ・認知症の帰宅願望強い方受け入れ難しいことがある。
- ・病院側の連携加算は来てくれないと取れない。



上手にしていること

○介護側から

- ・連携室があるのでスムーズに調整も出来るし気軽に相談できる。医師や看護師は急かしそうで中々聞けない。
- ・事前に入院などの相談が出来る。
- ・連携室の方が動いてくださるのでスムーズ。
- ・退院前の訪問をしてもらうのでイメージがわかりやすい。
- ・病院から情報が早くもえる。
- ・退院の連絡がとれやすくなった(ケアマネから各事業所)。
- ・退院前調整会議や担当者会議に出席し、把握しやすくなった。

○医療側から

- ・改訂後心配だったが、ケアマネ来てくれる。うれしい。
- ・連携が取れることにより、フォローが厚くなり、情報が早く伝わる。
- ・情報共有書の活用で情報が得られる。また、あると安心感有り。
- ・家族の要望等の把握が出来る。



連携のポイント

- ・入院早期の予後予測を行い、関係機関と共有することが大切。
- ・個人情報(年金、生保)等の扱いや、家族間や本人との関係性、思いに注意が必要。
- ・地域連携室を窓口にすると情報が集まりスムーズ。
- ・電話する時間に気をつける(申し送りや食事の時間、送迎時間をさける)。
- ・病院が欲しい情報は情報共有書でよいと思う。備考欄を活用して、本人の性格や好きなことも記入する。
- ・よい連携をとるために、話しやすい対応を心がける(特に電話対応で)。
- ・普段からコミュニケーションを大切にし、訪問して顔を出すようにする。
- ・担当者任せでなく関係機関で一緒になって皆で対応できるようにしておく。
- ・連絡方法等や必要な情報について早期に話し合っておく。
- ・基本的に情報共有書を使用するが、状態に変化がない入院などは、電話での情報提供でも良しとする。



連携エチケット

- ・事前に電話等で確認をしてから、相手先を訪問する。
- ・情報共有書を利用し、知っている情報を出来るだけ伝える(特に在宅での注意点、今回の入院での変化等)。
- ・専門用語を使う場合は注釈をつける。
- ・医療・介護れんらく帳について医療・介護関係者が良く理解する。また、本人に持っているか確認し、内容についてその都度修正、加筆を行う(活きた情報となるように)。
- ・連絡方法(番号や時間等)やいつまでに行うか等、入院後出来るだけ早く話し合っておく。
- ・チーム意識をもって連携を行う。お互いを思いやる言葉を使い。気持ちよく連携できるように。
- ・入退院支援ルールを活用し、連絡方法やいつまでに連絡を行うか等、入院後早期に話し合っておく。また、加算についても確認しておく。
- ・何事も早めの連絡を心がける。

